

中央こども病院サービス向上プロジェクト（国際協力機構 JICA）

大阪赤十字病院 国際医療救援部 看護師 池田載子

派遣期間 2024 年 8 月 9 日～10 月 13 日

シエラレオネ共和国にて、小児専門病院の医療サービスの質の向上のため、短期専門家として支援活動をおこないました。今回から、主な活動場所を新病院へとシフトし、トレーニングなどを中心に活動しました。

新病院の JMB-PCE (Dr. Julius Maada Bio Pediatric Centre of Excellence)は、今年 6 月に会員の式典が開かれましたが、受け入れ態勢はなかなか整っていません。派遣期間中は、外来のごく一部のみが稼働している状態でした。患者の受入れが出来ない原因には、いくつかありますが、大きな要因は医師・看護師不足と医薬品や医療消耗品などの不足です。シエラレオネは最貧国の 1 つですが、5 歳以下の小児医療は無料となっています。そのため、政府からの予算がなければ運用できません。各病院から予算申請が行われていますが、昨年、実際に政府から調達できた資金は予算申請した金額の 10 分の 1 程度のものでした。さらに実際に、現金を受け取ることが出来たのは、12 月でした。政府予算が降りないまま 11 カ月も病院運営を続けていたことになります。オラ・デュリング病院（以下 ODCH）では、医薬品の 8 割は、1 NGO 団体からの寄付で賄われていました。しかし、JMB-PCE へ定期的に医薬品などを寄付しつつ継続的に援助を行う NGO は現時点ではありません。そのため、点滴や点滴セットなどの基本的なものがなく、患者を受け入れることが出来ない状態です。

このように厳しい医療環境にありますが、できるだけ早く患者さんを受入れることができるように、看護師のトレーニングもこの機会に集中的に実施しました。今年 8 月に大阪赤十字病院で実習を行ったシエラレオネの研修員がファシリテーターとなり、積極的に研修を行ってくれました。今年度の研修だけでなく、来年度の研修計画も立案し、ファシリテーターだけでなく参加する看護師も、計画的にどの研修に参加するのかわかりやすくなりました。長期的な計画の立案などには、こちらからの支援が必要ですが、実際の研修などは現地スタッフにほぼ委譲することができ、教育体制は整っています。何よりも、日本で学んだことを、短期・中長期の目標として掲げて、実践しようとしています。病棟での患者さん受入れが進んでいなくても、その意欲は全く衰えることなく続いています。

その他、日本での 5 S-K A I Z E N にも大きな刺激を受けたようでした。定期的な研修にも取り込み、看護師だけでなく清掃員の方も含めすべての職員に対して研修を実施しました。「日本では、食堂で使用した後の椅子もきちんと元に戻している。5 S が日常的に習慣化している。私たちも見習わなくては！」という強い意気込みが感じられました。ラベリングやゾーニング、カラーコーディングなどを用い、救急カートを手始めとし徐々

に5Sも進めています。特に救急カートなどは、医薬品・医療資材をほぼ全病棟同じ配置とし、カラーコーディングなども統一することで、緊急時にインシデントが起こりにくいようにしています。救急カートから始めたことで、ただ整理整頓するだけではなく、医療事故のリスク軽減や作業効率の向上などにつながるということを実感してもらえているようでした。

持続可能な開発目標 SDGs には「すべての人に健康と福祉を」という健康に関する目標があります。その中でユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（以下 UHC）を達成するという目標が掲げられ、世界で最も重点的に対策が行われているものの1つです。UHC とは、すべての人が必要な時に、適切な保健医療サービスを負担可能な費用で受けられる状態のことを言います。日本では国民皆保険制度があり、小児から老人まで、がん治療や学校保健など様々な対象者に、幅広い医療サービスが安価に（他国と比較して）提供されるという状況にあり、UHC の達成率が非常に高いため、あまり UHC という言葉を聞く機会すらないと思います。しかし、シエラレオネではUHC達成率は5割を切っています。UHC 達成のためには多くの要因が関係していますが、特に保健医療の労働力、保健医療インフラ、保健医療の資材が最も基本的に必要であるとされています。この基本的部分が充足することで、医療の最低限の質と量が担保できると言ってもよいと思います。

シエラレオネでは、この基本的部分が充足していないため、ODCH や JMB-PCE のように各病院などを含め、質の高い医療を目指している看護師などの医療職には大きな負担と、そして期待がかかっています。

国自体の問題でもあるので、できることはある程度限られている部分がありますが、限られた資源・資金の中で、できるだけ多くの子どもたちが、少しでも質の高い看護を受けることができるよう支援を継続していきたいと思います。



座学だけでなく、演習も行います。ファシリテーターの数が多いことも強みです。



救急カートの5S



廃棄物もちちゃんと分別しています